



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年10月31日

上場会社名 TOTO株式会社 上場取引所 東 名 福
 コード番号 5332 URL <http://www.toto.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 喜多村 円
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 砂村 博和
 問合せ先 (役職名) 広報部長 (氏名) 赤坂 雅永 (TEL) 03 (6836) 2024
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月12日 配当支払開始予定日 平成26年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	243,997	△1.4	12,044	△20.8	13,305	△22.3	8,528	△53.5
26年3月期第2四半期	247,347	12.4	15,215	139.4	17,127	150.9	18,355	345.4

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 8,913百万円 (△73.2%) 26年3月期第2四半期 33,310百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	25 38	25 30
26年3月期第2四半期	53 67	53 52

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	474,748	240,667	48.9
26年3月期	476,387	256,596	52.0

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 232,180百万円 26年3月期 247,806百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	10 00	—	13 00	23 00
27年3月期	—	13 00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	13 00	26 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	544,000	△1.7	37,200	△21.2	37,900	△24.8	22,300	△49.5	66 39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	353,962,595株	26年3月期	353,962,595株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	17,744,888株	26年3月期	18,060,872株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	336,091,324株	26年3月期2Q	342,002,025株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）におけるわが国の経済は、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられたものの、緩やかな回復基調が続きました。

また、国内の住宅市場は、雇用・所得環境の改善などを背景として底堅く推移しましたが、駆け込み需要の反動によって新設住宅着工やリフォーム需要の減少などの影響がありました。

このような事業環境の中、当社グループは、引き続き創立100周年を迎える平成29年（2017年）に向けた長期経営計画「TOTO Vプラン2017（以下Vプラン2017という）」及び、平成26年度からスタートした4ヵ年の中期経営計画に基づき、「国内住設事業」「海外住設事業」「新領域事業」の各事業領域での活動を推進しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、連結売上高に関しては2,439億9千7百万円（前年同四半期比1.4%減）となりました。

一方、利益面では、連結営業利益が120億4千4百万円（前年同四半期比20.8%減）、連結経常利益が133億5百万円（前年同四半期比22.3%減）、連結四半期純利益が85億2千8百万円（前年同四半期比53.5%減）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりです。

①国内住設事業

当第2四半期連結累計期間の業績は、リモデル分野、新築分野とも駆け込み需要の反動による影響を受けたことなどによって、売上高が1,908億2千5百万円（前年同四半期比5.4%減）、営業利益が54億4千8百万円（前年同四半期比57.7%減）となりました。

TOTO、DAIKEN、YKK AP（以下TDYという）では、引き続き「グリーンリモデル診断（住宅に関わる環境評価基準を参考にした客観的な住まいの診断）」を活用し、トイレ・バス・キッチン・洗面の各空間におけるリモデル提案を行うことによって、環境に貢献するリフォーム「グリーンリモデル」を推進しています。

平成26年9月、TOTOとYKK APは、2社の商品を提案する「TY横浜コラボレーションショールーム」をオープンしました。これは、これまでのTOTOのショールームにYKK APのショールームを加えてリニューアルしたものです。これに加えて、TDYの3社は、全国で8ヶ所目となるコラボレーションショールームを平成28年春、名古屋にオープンすることを発表しました。

②海外住設事業

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が664億4千7百万円（前年同四半期比14.5%増）、営業利益が89億4千2百万円（前年同四半期比76.6%増）となりました。

世界経済は、一部で弱さが見られるものの、全般には緩やかな回復が続きました。

このような環境の中、海外住設事業においては、各国・各エリアでの経済動向や社会動向を注視しつつ、Vプラン2017及び中期経営計画に基づいた着実な成長戦略を推進しています。

<米州>

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が131億1千万円（前年同四半期比16.2%増）、営業利益が4億6百万円（前年同四半期比3.1%増）となりました。

米国では、市況の回復は依然として緩やかですが、当社グループにおいては、中高級市場におけるトップメーカーとしての商品優位性や価値伝達によって、ブランドの価値を高め、競合他社との差別化を図っています。

また、米州事業においては、成長市場の中南米エリアも包括した販売網の構築を進めています。

<中国>

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が333億3千3百万円（前年同四半期比7.6%増）、営業利益が66億2百万円（前年同四半期比53.1%増）となりました。

中国では、経済の緩やかな回復の動きがあるものの、政府の不動産抑制政策の市況への影響が続いています。このような環境の中、当社グループにおいては、内陸部における市場の拡大や、大都市から周辺都市への成長市場の移行など、市場環境の変化を注視して対応しつつ、高級ブランドとしての強みを活用し、現地のお客様に支持される事業活動を推進しています。

また、中国国内の長期的な市場成長による需要増に対応するため、効率的な生産・最適な供給体制の構築を進めており、平成26年7月には、衛生陶器を生産する福建工場が稼働を開始しました。

<アジア・オセアニア>

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が180億5千1百万円（前年同四半期比29.2%増）、営業利益が22億3百万円（前年同四半期比207.4%増）となりました。

アジア・オセアニア地域では、世界の供給基地としてタイ、インドネシアでの生産体制を充実させると共に、新興国市場での販売力を強化しています。インドネシア、台湾、ベトナムでは、高級ブランドとしての地位を築きつつあります。

インドにおいては、平成23年に現地法人を設立し、販売網を構築しています。また、需要拡大に対応するため、グジャラート州に建設していた衛生陶器の工場が、平成26年7月に稼働を開始しました。

<欧州>

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が19億5千2百万円（前年同四半期比9.9%増）、営業損失が2億6千9百万円（前年同四半期は営業損失3億5千8百万円）となりました。

欧州では、ドイツ、フランス、イギリスを中心に、販売チャネルの構築を進めており、代理店のショールームでは、当社の商品の展示が進んでいます。また、「ネオレスト」などの節水性能とデザイン性の高い商品を市場投入することによって他社との差別化を図り、欧州のみならず、グローバルでTOTOブランドの存在感をアピールしています。

③新領域事業

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が99億8千1百万円（前年同四半期比11.4%増）、営業損失が4億3千1百万円（前年同四半期は営業損失9億6千6百万円）となりました。

当社のオンリーワン技術を活かした「セラミック事業」、環境浄化技術「ハイドロテクト」による建材や塗料などを展開する「環境建材事業」等を「新領域事業」として、Vプラン2017及び中期経営計画達成に向けた事業活動を推進しています。

<セラミック事業>

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が52億2百万円（前年同四半期比36.1%増）、営業利益が3千1百万円（前年同四半期は営業損失4億5千1百万円）となりました。

オンリーワン技術を活かした構造部材、静電チャックなどの高精度精密セラミックス部品や光通信部品に特化し、全社横断の革新活動「ものづくり革新」活動を推進することにより、最適な生産体制の整備を進めています。

当第2四半期連結累計期間の業績は、引き続いて半導体市場の回復や光通信市場が活況であることなどを背景に、各商品の売上が大幅に伸長しました。また、製造部門で進めてきた体質強化の効果と共に、新商品の売上が伸長したことによって、営業利益が黒字化しました。

<環境建材事業>

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が47億7千9百万円（前年同四半期比6.9%減）、営業損失が4億6千3百万円（前年同四半期は営業損失5億1千4百万円）となりました。

「ハイドロテクト」は、光触媒を利用し光や水の力で地球も暮らしもきれいにする環境浄化技術であり、技術ブランドです。既に多くのお客様にご活用いただいております。建物の外壁から室内の壁や床までさまざまな製品に利用されています。また、事業戦略も国内中心から海外へと拡大させ、業種を横断したパートナーシップ「ハイドロテクトの輪」をグローバルに広げ、「ハイドロテクト」の普及と共に環境貢献を進めています。

当第2四半期連結累計期間の業績は、駆け込み需要の反動があった一方で、従来から取り組んできた革新活動により生産性が向上したことと共に、新商品の販売が好調だったことなどにより、売上は減少したものの損失幅を縮小しました。

<燃料電池>

燃料電池の心臓部である発電モジュールにおいて、当社のオンリーワン技術であるセラミック製発電セル（SOFC）及び発電モジュールの製造・開発を推進し、早期事業化を目指しています。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年4月30日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率から単一の加重平均割引率へ変更しています。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しています。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が29,970百万円増加すると共に、退職給付に係る資産が1,042百万円減少し、利益剰余金が20,209百万円減少しています。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ236百万円増加しています。

（従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱いの適用）

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成25年12月25日）を第1四半期連結会計期間より適用していますが、第1四半期連結会計期間の期首より前に締結された信託契約について、従来採用していた方法により会計処理を行っています。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	61,156	55,871
受取手形及び売掛金	102,213	82,793
有価証券	25,020	24,030
商品及び製品	32,070	35,866
仕掛品	8,986	12,252
原材料及び貯蔵品	11,911	12,585
その他	17,738	17,835
貸倒引当金	△295	△256
流動資産合計	258,800	240,977
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	50,035	48,588
土地	29,990	29,810
その他(純額)	57,763	62,685
有形固定資産合計	137,789	141,083
無形固定資産		
のれん	359	348
その他	13,024	13,610
無形固定資産合計	13,383	13,959
投資その他の資産		
投資有価証券	46,153	52,640
その他	20,536	26,357
貸倒引当金	△275	△270
投資その他の資産合計	66,413	78,727
固定資産合計	217,586	233,770
資産合計	476,387	474,748

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	73,041	68,491
短期借入金	5,925	6,395
未払法人税等	4,750	868
役員賞与引当金	285	56
製品点検補修引当金	31	22
事業再編引当金	1,055	981
環境対策引当金	944	944
その他	66,919	63,158
流動負債合計	152,955	140,917
固定負債		
長期借入金	26,858	26,360
退職給付に係る負債	37,131	64,203
その他	2,845	2,598
固定負債合計	66,835	93,162
負債合計	219,790	234,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	35,579	35,579
資本剰余金	29,216	29,216
利益剰余金	190,410	174,336
自己株式	△15,858	△15,662
株主資本合計	239,347	223,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,774	12,138
為替換算調整勘定	7,321	2,474
退職給付に係る調整累計額	△6,635	△5,901
その他の包括利益累計額合計	8,459	8,710
新株予約権	583	604
少数株主持分	8,206	7,883
純資産合計	256,596	240,667
負債純資産合計	476,387	474,748

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	247,347	243,997
売上原価	154,615	151,002
売上総利益	92,732	92,995
販売費及び一般管理費	77,516	80,950
営業利益	15,215	12,044
営業外収益		
受取利息	654	869
受取配当金	526	592
持分法による投資利益	546	489
為替差益	381	405
その他	906	684
営業外収益合計	3,016	3,041
営業外費用		
支払利息	90	65
売上割引	559	591
固定資産除却損	214	681
その他	240	442
営業外費用合計	1,104	1,780
経常利益	17,127	13,305
特別利益		
土地等売却益	2	—
投資有価証券売却益	18	0
関係会社株式売却益	4,808	—
会員権売却益	—	0
受取補償金	96	175
持分変動利益	172	—
特別利益合計	5,098	175
特別損失		
会員権売却損	—	0
有価証券評価損	1	38
会員権評価損	—	13
事業再編費用	251	60
特別損失合計	253	112
税金等調整前四半期純利益	21,972	13,368
法人税、住民税及び事業税	4,719	3,287
法人税等調整額	△1,501	1,014
法人税等合計	3,218	4,302
少数株主損益調整前四半期純利益	18,753	9,066
少数株主利益	397	537
四半期純利益	18,355	8,528

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	18,753	9,066
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,753	4,364
為替換算調整勘定	9,908	△5,005
退職給付に係る調整額	—	733
持分法適用会社に対する持分相当額	894	△245
その他の包括利益合計	14,556	△153
四半期包括利益	33,310	8,913
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,080	8,779
少数株主に係る四半期包括利益	1,229	133

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	21,972	13,368
減価償却費	7,070	7,875
有価証券評価損益(△は益)	1	38
会員権評価損	—	13
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△132	△39
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△61	△229
製品点検補修引当金の増減額(△は減少)	△12	△9
事業再編引当金の増減額(△は減少)	42	△73
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△1,432	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	△1,776
受取利息及び受取配当金	△1,180	△1,461
支払利息	90	65
投資有価証券売却損益(△は益)	△18	△0
関係会社株式売却損益(△は益)	△4,808	—
会員権売却損益(△は益)	—	0
土地売却損益(△は益)	△2	—
固定資産除却損	214	681
受取補償金	△96	△175
持分変動損益(△は益)	△172	—
売上債権の増減額(△は増加)	587	18,972
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,035	△8,676
仕入債務の増減額(△は減少)	2,017	△4,236
その他	572	△4,526
小計	22,616	19,810
利息及び配当金の受取額	1,594	1,680
利息の支払額	△91	△56
補償金の受取額	96	175
法人税等の支払額	△4,849	△7,053
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,366	14,556
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,090	△1,653
定期預金の払戻による収入	1,085	1,087
短期貸付金の増減額(△は増加)	0	0
有形固定資産の取得による支出	△8,676	△12,267
有形固定資産の売却による収入	5,800	224
無形固定資産の取得による支出	△1,859	△2,315
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△22	△5
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	48	11
関係会社株式の取得による支出	△1,187	—
関係会社株式の売却による収入	8,166	—
長期貸付けによる支出	—	△10
長期貸付金の回収による収入	10	16
その他	606	238
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,880	△14,673

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,035	—
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	25,000	15,000
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	△25,000	△15,000
長期借入れによる収入	17,200	570
長期借入金の返済による支出	△17,569	△503
配当金の支払額	△2,746	△4,366
自己株式の取得による支出	△8,342	△18
少数株主からの払込みによる収入	1,575	249
その他	△511	△329
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,429	△4,399
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,642	△2,235
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	15,459	△6,750
現金及び現金同等物の期首残高	55,720	83,874
現金及び現金同等物の四半期末残高	71,180	77,123

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	国内住設事業	海外住設事業				
		米州	中国	アジア・オセアニア	欧州	計
売上高						
外部顧客への売上高	196,182	11,281	22,398	7,387	1,777	42,844
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,437	1	8,578	6,586	0	15,167
計	201,619	11,283	30,977	13,973	1,777	58,012
営業利益又は営業損失(△)	12,877	393	4,313	716	△358	5,064

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	新領域事業			計				
	セラミック事業	環境建材事業	計					
売上高								
外部顧客への売上高	3,823	4,393	8,216	247,243	103	247,347	-	247,347
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	742	742	21,346	138	21,485	△21,485	-
計	3,823	5,135	8,958	268,590	242	268,833	△21,485	247,347
営業利益又は営業損失(△)	△451	△514	△966	16,976	41	17,018	△1,802	15,215

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	国内住設事業	海外住設事業				
		米州	中国	アジア・オセアニア	欧州	計
売上高						
外部顧客への売上高	184,786	13,097	25,118	9,578	1,946	49,740
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,039	12	8,215	8,472	6	16,706
計	190,825	13,110	33,333	18,051	1,952	66,447
営業利益又は営業損失(△)	5,448	406	6,602	2,203	△269	8,942

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	新領域事業			計				
	セラミック事業	環境建材事業	計					
売上高								
外部顧客への売上高	5,197	4,148	9,346	243,872	124	243,997	-	243,997
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	631	635	23,381	25	23,406	△23,406	-
計	5,202	4,779	9,981	267,254	149	267,404	△23,406	243,997
営業利益又は営業損失(△)	31	△463	△431	13,958	54	14,013	△1,969	12,044